

News Letter

ニュースレター

2025.03 vol.129



特集◎ 愛知万博から20年

羽ばたき続ける地域交流のステージ

調査研究

建築系愛知17大学共通設計競技「にぎわいに続く、中川運河の新たな到達点」

まちづくり支援

まちづくりびと講座「もっと知りたい、なごやのまちづくり」

まちづくり来ぶらり

金山体育館

左/アスナル金山と金山南ビル
右上/中部国際空港 3階出発ロビー
右下/中部国際空港 デッキからの眺め

愛知万博から20年

羽ばたき続ける地域交流のステージ

ボーイング787初号機の実機が展示される体験型航空テーマパーク「フライト・オブ・ドリームズ」。



商業施設と野外ステージやくつろぎのスペースが融合する「アスナル金山」。



愛知万博と3つの交流拠点

“自然の叡智”をテーマに、121カ国4国際機関が参加した愛知万博（愛・地球博）。2005年3月から9月までの会期中185日間で、世界各国から2200万人の来場者が訪れ、万博会場周辺をはじめとして、愛知県内、名古屋市内も多くの観光客でにぎわいました。あれから20年。愛知万博にあわせて中部地方の新たな空の玄関口として開港した中部国際空港「セントレア」、セントレアと万博会場や名古屋市内を結ぶ交通拠点

である金山に交流の場として誕生した「アスナル金山」、愛知万博のサテライト会場として利用された名古屋駅圏内にある「ささしまライブ24地区」もそれぞれの20年を歩み、さらなるステージに向けて動き始めています。

進化を続ける “遊べる” 空港「セントレア」

セントレアの開港は、2005年2月17日。愛知万博の開催から約1ヶ月前でした。開港直後は1日10万人以上の来港者で

溢れかえる日もあったものの、万博開催までの1ヶ月間で、空港スタッフは日々習熟と改善を重ねることができ、万博のお客様を万全の体制で迎えることにつながったと言います。それから20年が経つ中で、2019年にはLCC（格安航空会社）向けターミナルとして、第2ターミナルが開業するなど進化を続けています。

また、セントレアは開港当初から、空港を移動の通過点ではなく、目的地の一つとして、観光やビジネスの拠点にすることを目指しています。航空機の発着が展望できるスカイデッキやご当地グルメが味わえる飲食店、みやげもの店など、旅行者以外にも楽しめる施設が多くあり、2018年には複合商業施設「フライト・オブ・ドリームズ」が新たにオープンしました。ボーイング787初号機の実機が展示された体験型航空テーマパークとして人気を集めています。



開港以降も進化し続けるセントレアの新施設と20周年記念の装飾。

第2ターミナル



第1ターミナル出発ロビー



20周年記念装飾



環境に考慮して設置されたアスナル金山の風車(左)と壁面緑化(右)。風車で発電された電気は夜間照明に使われています。

そして、来年2026年にはアジア・アジアパラ競技大会が開催予定。セントレアは公式空港として準備が進められています。人材確保や働く環境の整備を進めるとともに、省人化・省力化や手続きの円滑化を目的としたファストトラベル化を推進。第1ターミナル国際線出発ロビーの自動チェックイン機を増設、自動手荷物預け機を新設することで、航空会社カウンターを経由せずに行き届くようにし、利便性が高まります。また、コロナ禍で一時休止していたセントレア案内ボランティアが2024年度から再開。語学に堪能なボランティアも多く、アジア大会の参加者を迎えるうえで重要な役割を担うことが期待されています。そのほか、国際線の路線拡大、遊べる施設の拡充、代替滑走路の整備を図ることで、さらに快適で利便性の高い国際空港を目指しています。

れた大規模未利用地として有効活用が期待され、名古屋市は、商業・業務を中心とした土地利用へと大規模な転換を図るため、1999年より土地区画整理事業に着手。また、2005年には愛知万博のサテライト会場として利用され、350万人を超える入場者を記録し、その後は、愛知大学名古屋キャンパス、中京テレビ放送、複合施設のグローバルゲートなどがオープンしました。そして、2017年には「まちびらき」が行われ、今後も官民協働によるまちづくりが進められます。

金山のにぎわい施設「アスナル金山」のこれから

愛知万博の開催が決定し、セントレアが開港されることになると、空港へのアクセス拠点および名古屋市の南の玄関口となる金山に交流の場が必要

という声が高まり、整備されたのが金山総合駅北口の「アスナル金山」です。金山北地区開発の第一段階として、15年間の期間限定で始まりしました。衣料雑貨、飲食店を中心に、「アスナル広場」と呼ばれる野外ステージでは音楽ライブやショーなどさまざまなイベントを開催するほか、周辺地域とともに祭りを行うなど、地元とのつながりを深めながら、にぎわいの創出に貢献してきました。これまでに2013年、2020年と2度のリニューアルを経て、さまざまな世代の人が訪れて楽しめる空間へと進化を続けています。

2018年には、契約期間を10年延長することとなり、今年で20周年を迎えます。3月には20周年記念式典、夏頃には開港20周年を迎えたセントレアとのコラボイベントを予定しています。

そして、さらなる発展に向けて、名古屋市では、アスナル金山エリアを含む金山北地区の再整備が進み始めています。交通利便性を活かした、多様な人が集い楽しむ、にぎわいと地域交流の拠点となる駅前空間の整備が想定されています。名古屋都市センターのある金山南ビルなど周辺街区との連携や金山らしさを継承したまちづくりに期待が高まっています。

万博サテライト会場「ささしまライブ24地区」の今

かつて中川運河の物流の一大拠点として機能していた笹島地区は、トラック輸送の発達等による貨物駅の廃止後、1980年代後半からは都心に残さ



ささしまライブ24地区の変遷の様子。左から、2001年/2005年/2020年 提供 名古屋市

周辺地域との共生 地元の人も楽しめるイベントの開催

“遊べる”空港セントレアでは、さまざまなイベントが開催されています。「セントレア空港音楽祭」は、プロ・アマチュア混合、オールジャンルの音楽イベントとして2011年1月にスタート。今年で20回目を迎えます。地元の小中学生のオーケストラや吹奏楽団なども参加し、地域とともに歩む空港の象徴的なイベントとなっています。また、「セントレア盆踊り」は、スカイデッキで飛行機を眺めながら踊ることができる、日本で一番飛行機に近い盆踊り。国内外からの観光客や地元の人々でにぎわう夏の恒例行事です。



セントレア盆踊り



建築系愛知17大学共通設計競技 「にぎわいに続く、中川運河の新たな到達点」

建築系愛知17^{*1}大学共通設計競技^{*2}は、建築・まちづくりを志す学生から、設定されたテーマ・エリアの今後のまちづくりに向けた提案をいただき、審査員により公開審査・講評を行っております。今回は、「にぎわいに続く、中川運河の新たな到達点」をテーマに、令和6年12月7日(土)に開催されました。計35作品の提案の中から最優秀賞を受賞した作品についてご紹介いたします。

^{*1} 参加大学数を示す ^{*2} 主催：建築系愛知17大学合同企画展実行委員会 共催：名古屋都市センター

最優秀賞 受賞作品 「中川運河における多元的使い方のすゝめ」

名城大学 生田研究室 天野 竜太郎さん 宮崎 遥朋さん

●中川運河の現状

- ①かつての中川運河は、運送路として機能し、河川と建物が密接に関わっていた。
- ②運送路としての役割を終え、密接に関わり合っていた空間は消え去り、都市の中で取り残された存在となっている。
- ③癒しを求め、眺望の場として活用する一方で、一元的な関係性が課題となっている。

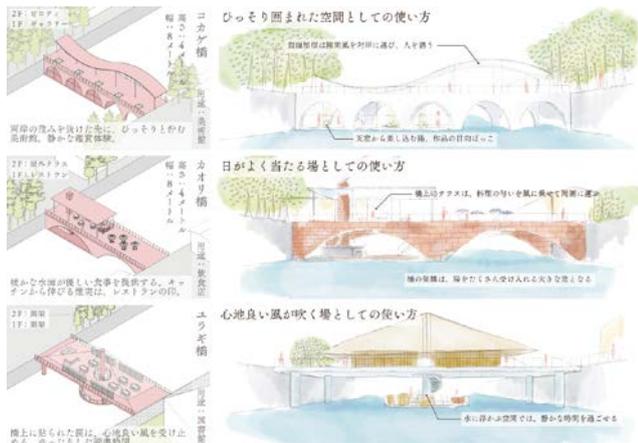
●設計コンセプト(抜粋)

①都市のヴォイド^{*}としての中川運河 ※構造物のない空間、虚空の空間

中川運河は都市の中で特別なヴォイド空間として存在し、野鳥の通り道や潮風の道、遮蔽物のない日当たりの良い水面など、捉え方によって、多元的な関わりを持てる空間となっている。

②「橋」という空間の可能性

運河を感じる特別な場所であり、運河と多元的な関係を築く上で重要な場所となり得る。橋を活動場所にすることで、運河の可能性が引き出され、橋下、橋上をつなぐ豊かな居場所が創出される。



公開審査の講評

- 橋を身体性を伴いながら設計に落とし込んでいた点がよかった。
- 暮らしている人達への視点があり、それに対する提案があったこと、中川運河をヴォイドとしてポジティブに捉えている点を評価した。
- 橋が居場所になって、変化に富んだものが連続していくことで、面としての中川運河ができ人間のものになっていく可能性を感じた点と、構想力という点で評価した。

審査員

高野 洋平氏
(有限会社MARU.architecture 共同主宰)

森田 祥子氏
(有限会社MARU.architecture 共同主宰)

秀島 栄三氏
(名古屋工業大学大学院教授)

浅井 信好氏
(PALET.NUクリエイティブディレクター)

林 俊樹氏
(名古屋市住宅都市局名港開発振興課 課長)

提案者へのインタビュー

●現状の中川運河をどう見えていますか？

運河に対して平行にプロムナードや建物があり、心地よい空間ではあるが、どこか一方通行な感じを受けました。

●今回の提案の中で一番のおすすめポイント(推しの橋)は何ですか？

1番のおすすめは「コカゲ橋」です。この橋は、運河へのリスペクトと、人との共存を考え、設計しました。上下空間をつなぐ天窓や人を引き寄せる屋根といった工夫を凝らし、運河の上でしか味わえない特別な体験を一つに凝縮した場所となっています。

●将来の中川運河への期待をお聞かせください。

魅力ある施設や人が集まる施設が点々にできているが、これからはまちらしさが直接感じられる空間や、その場所に存在する理由が自然と伝わるような場所になってほしいと思います。



最優秀賞・優秀賞作品の詳細は、
都市センターのHPで公開





令和6年度 まちづくりびと講座

「もっと知りたい、なごやのまちづくり」

本講座では3回にわたって、まちづくりの実践者から活動への想いや経験を聞くことで、参加者に「もっと知りたい、まちづくり」さらには「私もやりたい、まちづくり」そう思っただけなく、いただくことを目指して開催しました。

必見!!



各回の詳細なレポートはこちらから!

第1回 「名古屋の未来は屋上にあり!?!」

講師 青空ルネサンス しのもと たかゆき 篠元 貴之 さん・ごとう ちひろ 後藤 千丈 さん

屋上。それは街のいたるところにあるけど、非日常的で不思議な空間。「名古屋といえば、屋上だよな。」そんな未来を目指し、屋上をみんなで普段使いしていくことで、名古屋の屋上を変えていこうと活動される講師のお二人から、「屋上×名古屋」の可能性をお話いただきました。青空の下で本を読んだり、おしゃべりしたり、誰でも「楽しそう」「行ってみたい」と感じる魅力的な空間づくりはもちろん、大切なはその「伝え方」!? 活動を広げるための工夫やポイントも教えてくださいました!

知る



感じる



第2回 「感じよう!中川運河の新拠点」

講師 PALET.NU あさい のぶよし 浅井 信好 さん・はら よしき 原 佳希 さん

令和6年9月から期間限定でオープンした「PALET.NU」(パレット・ニュー)は、中川運河エリアの魅力をより多くの方が学び、体感し、そして自ら活動するための協働の場。その場づくりを担う講師のお二人から、このプロジェクトの狙いと、そこにかける想いをお話いただきました。

「これから大事なことは、住む人々にフォーカスすること。」という言葉通り、このエリアのためにできること・必要なことは何かと、様々な課題に真摯に向き合っている姿が印象的でした。

第3回 「若さに学ぶ!若者×まちづくり」

講師 内田橋ヤング洋品店 やまぐち しょうた 山口 翔大 さん/かみやしろ居場所づくり同好会 むらまつ まほ 村松 真帆 さん・いとう りょう 伊藤 稜 さん

コーディネーター 講師をよく知る よこい 横井 れい さん(名古屋市コミュニティサポーター)

まちとの接点が見えづらいこの時代、そこに挑戦する若者たちがいます。「服を通じて、地域と若者の接点をつくれるのでは?」「生きづらさを抱える人のための居場所づくりがしたい!」。そんな熱い想いで、まちに飛び込んでいった2組の講師から、その経緯を語っていただきました。

二組とも最初から活動が順風満帆だったわけではありません。しかし、地域に何度も足を運ぶうちに、次第に周囲の反応が変わり、活動が軌道に乗っていく……、そんなターニングポイントがあったようです!

学ぶ





金山体育館

名古屋市中区金山一丁目。現在、名古屋市民会館（Niterrra日本特殊陶業市民会館）が建つ敷地の一角に、かつて「金山体育館」がありました。この体育館は1950年（昭和25年）に愛知県で開催された第5回国民体育大会のために建設され、収容人数6,000人、鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て（一部3階建て）の施設でした。その時のバスケットボールの試合を、昭和天皇皇后両陛下がご観覧されたという記録が残っています。

大会終了後も様々なスポーツの会場として親しまれ、1958年（昭和33年）から1964年（昭和39年）にかけては、大相撲七月場所（名古屋場所）の会場としても使用されました。当時は冷房設備がなかったことから、夏の暑さは相当なものであったと想像されます。また1963年（昭和38年）12月にはプロレスの試合、アジアタッグ選手権「力道山&豊登（とよのぼり）vsザ・デストロイヤー&キラー・オースティン」が開催され、これが力道山の名古屋における最後の試合となりました。

名古屋市は1969年（昭和44年）に市制施行80周年を迎え、人口200万人を突破したことを記念し、市立博物館や国際展示場とともに市民会館を新たに建設することを正式に発表しました。戦後の復興期に人々の文化活動を支えた金山体育館は役目を終え、1968年（昭和43年）に解体されました。

50年以上の歳月が流れ、現在この地区には新たなまちづくり構想や再生整備計画が検討されています。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

- 『建築の肖像～名古屋市市設建築100年誌』（2B13-91）
- 『報道写真集 名古屋情熱時代』（Sc-モ）
- 『第五回国民体育大会御幸啓記録』（Sc-ミ）

◆写真出典◆

- 『建築の肖像～名古屋市市設建築100年誌』（2B13-91）p.93

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

まちづくりライブラリー
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

図書紹介

『世界で一番おもしろい構造デザイン』

著者：日建設計構造設計グループ
 出版社：エクスマレッジ
 請求記号：le-ニ

名古屋市科学館の大きな球体が浮いているように見える建物はどうに設計したのでしょうか？ダイヤゲート池袋はどういった技術で線路をまったく建築を可能にしたのでしょうか？今までにない空間体験や難しい条件下での設計の実現には、構造設計の果たす役割が年々大きくなっています。スケッチやモデリングなどの図版とともに、現役構造設計者の頭のなかで起きていることをわかりやすく解説します。



『スポーツによる地域振興 その視点と具体的アプローチ』

著者：神成淳司，信朝裕行
 出版社：三修社
 請求記号：Cf-シ

スポーツによるまちづくりは近年各地で広がっています。では実際にスポーツを地域振興に結び付けるためにはどのような視点を持ち、アクションを起こしていけばよいのでしょうか。慶応義塾大学で2023年に行われた講座を通じて共有された様々な知見や問題意識をもとに書かれた本書は、スポーツを地域の活性化に活用し、人々とスポーツのつながりを醸成しながら持続的な取り組みとして成功させるための一助となるでしょう。



『「ちいさな社会」を愉しく生きる 広い世界から、深い宇宙へ』

著者：牧野篤
 出版社：さくら舎
 請求記号：Cg-マ

全国各地の高齢化や過疎化に悩む地域に出向き、コミュニティの活性化に取り組む著者が企業人生の先、どうすれば老いを豊かに生きられるか、どういふコミュニティが高齢者も居心地よくいられるかを提案します。都内の空き家、都市近郊の限界団地、各地にある公民館など現在進行形で実在する「ちいさな社会」。子どもから高齢者までいきいきと暮らす「ちいさな社会」を紹介します。



1 令和7年度の 地域まちづくり支援制度活動助成の 募集が始まります!

名古屋都市センターでは、地域主体のまちづくり活動を行う団体向けに、仲間づくりから実践まで、まちづくり活動の段階に応じた助成メニューを用意しています。



1. スタートアップ助成

これからまちづくり活動を始めるグループや活動初期の団体、仲間づくりや、まちづくりの最初に向けた助成です。

2. 成長支援・実践活動助成

活動を広げていきたいという団体に向けて、地域との関係づくりや公共空間を活用した社会実験の実施、まちづくり構想の策定や、その実現に向けた実践的な活動などを支援する助成です。以上の2つのメニューで、みなさんの活動を応援します。

令和7年度は4月から募集開始予定です。

※助成にあたっては要件があります。
※事前相談必須です。

- スタートアップ助成
初申請団体のみ
- 成長支援・実践活動助成
全団体(名古屋市による登録が必要です)



詳しくは名古屋都市センターHP
「まちづくり活動助成」のページをご覧ください。



2 貸会議室のご案内



金山総合駅南口より徒歩1分!大きな窓からの眺望が良い開放感のある会議室です。

無料インターネット完備。最大100人まで収容可能です。

場 所: 金山南ビル14階

ご利用時間: 月~金 9:00~21:00

土・日/祝 9:00~17:00

(年末年始を除く)

詳しくは名古屋都市センターHP
「貸会議室」のページをご覧ください。



3 機関誌アーバン・アドバンス No.83発行 特集「アジアでの先進的なまちづくり」

アーバン・アドバンスは、まちづくりに関わる方々の論文、名古屋のまちづくり情報、名古屋都市センターの研究結果などを掲載しています。

83号のテーマは「アジアでの先進的なまちづくり」です。海外では、積極的に最先端の技術を取り入れるなど新たなまちづくりが進められています。本号では、アジアにおけるまちづくりの最前線の取組事例や今後の展望について、TOD、スマートシティ、スタートアップ、住宅整備、首都移転といった観点から5都市におけるまちづくり事例を特集します。



※本誌は名古屋都市センター12階のまちづくりライブラリーにて販売(定価700円)しております。(令和7年3月末発行予定)

4 名古屋都市センター賛助会員の募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援して下さる令和7年度の賛助会員を募集しています。

当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

《賛助会員の種類》

- 法人会員(年会費 1口50,000円)
 - 学校法人(年会費 1口50,000円)
 - 個人会員(年会費 1口5,000円)
- (期間:令和7年4月1日から翌年3月31日まで)

《会員特典》

- 機関誌「アーバン・アドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
- 都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内(まちづくり講演会、施設見学会等)
- まちづくりライブラリーの利用を優待
- 貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ
- 都市センター出版物の割引販売
- 税制上の優遇措置

詳しくは名古屋都市センターHP
「賛助会員」のページをご覧ください。



まちづくり基金感謝状贈呈式

名古屋都市センターでは、地域に根ざしたまちづくりを促進するために、まちづくり基金を設置しております。このたび、名古屋市下志段味特定土地区画整理組合様より、多額のご寄附いただきました。ご厚意に対し、深く感謝申し上げます。



名古屋市内の文化財等をご紹介します。

歴史を巡る まちを巡る



歴史くんとおとも



所在地 【南園】千種区法王町2-5-17 【北園】千種区法王町2-5-21
地下鉄東山線「覚王山」下車、1番出口から北に徒歩約10分



戦前の大別荘 揚輝荘(園内の5棟が名古屋市指定有形文化財)

●揚輝荘へ

地下鉄東山線覚王山駅で電車を降り日泰寺の方へ歩いていきます。参道にはケーキ屋さんや紅茶葉を売る店などがあり、つい寄り道をしてしまいます。そんな参道を歩いていくと歳覚寺(歳弘法堂)を過ぎたあたりに小さな案内看板がありますので、見落とさないように右に曲がり、しばらく歩いていくと揚輝荘南園の入り口が見えてきます。

●揚輝荘とは

揚輝荘は大正から昭和初期にかけて(株)松坂屋初代社長の伊藤次郎左衛門祐民(1878-1940)が名古屋東部の丘陵地帯に整備した別荘です。最盛期には約35,000㎡の広大な敷地に30数棟もの建物が移築・新築されました。現在は北園と南園に分かれ5棟が名古屋市指定文化財に指定されています。

●南園の見どころ

南園(約2,700㎡)には有料で公開している聴松閣*があります。

聴松閣は山荘風の建物で1階には在りし日の揚輝荘のジオラマが展示されており、戦前の実業家のスケールの大きさに驚かされます。旧食堂には「うとい」(右から読む)の文字や床暖房、壁の装飾など見どころがたくさんあって見飽きません。

おすすめは地階で、インド風の室内意匠でまとめられているうえ、舞台付のダンスホールもあり、在りし日の姿に思いを馳せることができます。

●北園へ

出口の方へ戻る途中の右側に階段があります。通路の右側には今でも松坂屋のロゴマークに使われている旧伊藤銀行のビルに飾られていたマークがひっそりと

《参考文献》京都伝統建築技術協会 編(2014)『揚輝荘聴松閣修復整備工事報告書:名古屋市指定有形文化財』名古屋市

置かれているので、忘れずにチェックしましょう。

●北園の見どころ

北園(約6,500㎡)は、高低差があり池もある大きな庭園に建物が点在しています。通常建物の中には入れませんが一番大きな建物の伴華楼*では伊藤家に所縁の品などが展示されています。

園内には稲荷社もありますので粗相のないように過ごしましょう。

池の奥には白雲橋*が架かっており渡ることはできませんが天井画は要チェックです。見えにくいのが残念ですが…。そしてぐるりと池をめぐるついでに茶室として使われる三賞亭*があり、このあたりから西を見上げると樹々の間から日泰寺の五重塔を見ることができます。

*名古屋市指定有形文化財

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

http://www.nup.or.jp/nui/



ISSN:1341-6820

この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

【12階】まちづくりライブラリー

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

*休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、
年末年始

まちづくりライブラリーは、
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS
やっています!

